

# Young Officials' Camp 2015

参加報告書

南空知地区バスケットボール協会  
新屋 聡子

## 1. 期日

平成 27 年 8 月 14 日(金)～16 日(日)

## 2. 会場

埼玉県立スポーツ総合センター  
上尾運動公園体育館

## 3. 参加者

25 歳以下の日本公認審判員  
男性 23 名 女性 17 名 計 40 名

## 4. 日程

### 【8月14日(金)】

12:30 受講者受付  
13:30 開講式  
13:50 実技Ⅰ「トレーニング等」  
17:00 入浴  
18:00 夕食  
19:00 講義Ⅰ  
23:00 消灯

### 【8月15日(土)】

6:30 起床  
7:00 朝食  
8:00 移動  
9:30 実技Ⅱ「モデルゲーム」  
17:00 入浴  
18:00 夕食

19:00 講義Ⅱ  
19:20 講義Ⅲ  
20:40 閉講式  
23:00 消灯

### 【8月16日(日)】

6:30 起床  
7:00 朝食  
8:00 移動  
9:30 実技Ⅲ「モデルゲーム」  
(各自帰りの交通機関にあわせて随時解散)

## 5. 講義

### Ⅰ. 「審判員の心得」

Mr. Carl Jungebrand  
(FIBA Head of refereeing)

Mr. Carl Jungebrand は、オリンピックやワールドカップで決勝の審判員をした経験のある方だ。国際審判員になると言える者だけが国際審判員になることができる。彼は言った。目標を口に出して言えることが、最も大切なことである。

審判員に必要なことは、見かけ、アビリティ(スピード、強さ、柔軟性、回復力)、見えないところで行う努力である。FIBA から審判員のためのフィジカルトレーニングマニュアルが発行された。20代から30代のうちにこのフィジカルトレーニングを行うことで、30代から40代で最も良いパフォーマンスをすることができるだろう。

日本人には日本特有の奥ゆかしさがある。しかし FIBA は国関係なく、バスケットボールのコミュニケーションのできる審判員を求めており、コートに立つ以上、自分の意思を力強く示していく必要がある。自分

の意思を示すことは、信頼を勝ち取ることもつながる。

判定を行うときは、一つのプレー（プレーの始まり、中間、終わり）に対して分析を行うべきである。プレーに近づきすぎるとプレーが速く見えるため、一定の距離を保つことと、45度の角度に体を開いてプレーを見ると良い。常に良いポジションを求めて動くことが重要である。しかし、動きよりも大切なのは判定をすることであり、走ることばかりに集中しすぎて判定がおろそかになってはいけない。1対1、2対2に焦点を当てすぎず、広い範囲でプレーを見るべきだ。そして、全てのプレーに対して同じ判定基準で処置を行わなければならない。年々、バスケットボールの技術も上がっており、審判員のさらなるレベルアップが必要だ。

## II. 「YOC から世界へ」

加藤 誉樹 氏

加藤氏は、2010年にこのYOCに参加し、その後AA級にまで昇格し今現在活躍している。審判員に必要なのは、ABC（当たり前のことを馬鹿にしないでちゃんとやる）である。バスケットボールの試合には勝ち負けが関わっており、レベルの高いゲームほど些細なことが信頼を失う原因となってしまう。審判員は選手のためを最優先に考えなければならない。

上級審判員を目指すためには、大きな目標も必要だが、小さな目標も必要である。小さな目標のクリアを積み重ねることで、自分の目指す審判像に近づくことができるだろう。

## III. 「ルール・マニュアル」

平野 彰夫 規則グループ長

本講義では、DVDを見ながらシリンダーの概念について意見を交換し合った。触れ合いが起こったときに、どちらに責任があるのかを例に挙げながら、オフフェンスかディフェンスかノーコールかダブルファールなのかを考えた。場合によっては、最初はリーガルでも後の動きでイリーガルになるケースや、見る角度によっては触れ合いの責任が異なるプレーもあった。

このDVDによるプレーの例を見て、実際の試合で同じシチュエーションになったときに判定できるようにならなければならない。実際の試合では、スピードもあり自分も動いているため、瞬間的に判断しなければならない場合もある。そのときに、なぜその判定をくださったのかを説明できなければならないと、そのためにもシリンダーについて深く理解する必要がある。

## 6. 実技

### I. 「よりよいプレゼンテーションの基本 体幹を作るトレーニング・アジリティトレーニング」

野田 拓司 氏

ストレッチには、スタティック（静的）ストレッチとダイナミック（動的）ストレッチがある。ダイナミックストレッチは、動きながら行うストレッチであり、筋間の柔軟性や協調性を高めるため、運動前に行うことが有効であるとされている。今回、何種類かのダイナミックストレッチをしてからトレーニングを行った。

審判員はプレーヤーと同様の体力が求め

られる。FIBA から発行された実際のトレーニングマニュアルに沿って、10 分間走、サーキット、短距離ダッシュ、3 往復ダッシュを行った。サーキットは、speed（7～8 割の速さ）と slow（3～4 割の速さ）を 1 分もしくは 2 分間隔で繰り返し行った。短距離ダッシュは、10m から 50m の長さの距離を全力で計 15 本（50m×1,40m×2,30m×3,20m×4,10m×5）走った。その後、同じ本数を今度はジョグをしながら帰ってきて、足を休ませることなく連続して走った。

走るメニューの後は、体幹トレーニングを行った。審判員にとって良い姿勢は基本的なことであり、良い姿勢を保つためには体幹が必要である。

## II. 「高校生男女のモデルゲーム (8/15)」

10 分 - 2 分 - 10 分（第 1・第 4 ピリオド扱い）のゲーム。タイムアウトは各ピリオド 1 回、延長戦はなしで行った。

### (1)11:45～ 川口北 対 豊島（女子）

主任 吉田 正治 氏

主審 服部 尚美（三重）

副審 新屋 聡子（北海道）

〈自己反省〉

ボール中心にプレーを見ていて、パスをさばかれた後のスペースをとらえるのが遅かった。ディフェンスがオフェンスに対して当て続けていた手の使い方について、最後まで判定することができなかった。

〈講評〉

トレールの動きに課題がある。1対1のスペースはとらえられているが、その次のプレーに対応できていない。2対2、3対

3のスペースを見ることができる位置取りをするのが良い。また、3番エリアを見ている位置が遠い。3番エリアは責任を持ってトレールが見なければならない。

### (2)14:45～ 草加 対 川口北（女子）

主任 吉田 正治 氏

主審 新屋 聡子（北海道）

副審 永井 清花（神奈川）

〈自己反省〉

前半、ファールがあったと認識しているにも関わらず、判定をすることができなかった。プレーを薄いスペースでしかとらえていなかったため、判定に迷いが出たのではないかと推測する。

〈講評〉

1 試合目に比べると、ポジショニングが良くなった。トレールの追従ができており、3番エリアもしっかり寄っていた。リードは、インサイドにボールが入った後の動きにも対応することができていた。ポジショニングが良くなったので、次は判定をする決断力をつけなければならない。そのためにも、シリンダーの概念をもう一度確認し基準を定めることが必要である。

後半からファールを判定していたが、それも一時的に吹いて終わってしまっている。プレーヤーがファール（イリーガルな手の使い方）をやめるまで続けて吹かなければならない。

## III. 「高校生男女のモデルゲーム (8/16)」

### (1)10:15～ 鷹の台 対 豊島（女子）

主任 吉田 正治 氏

加藤 誉樹 氏

主審 小林 直樹（鳥取）

副審 新屋 聡子（北海道）

〈自己反省〉

両チーム、ファールの数が多かったので、前半からファールを吹きあげていった。しかし、相手審判とのファールの基準がずれており、プレーヤーの戸惑いを感じた。インターバル時にお互いの判定基準を合わせるべきだった。

〈講評〉

吉田氏 両チーム、チームファールが積み重なっていたが、ファールの取りどころを間違えてはいけない。後半から鷹の台のファールがなくなったが、豊島のやり返しのファールがあった。取るべきファールをしっかり判定して、やり返しのファールを未然に防止しなければならない。

加藤氏 次のプレーを予測すること。予測するためには、ハーフやインターバル以外は常に考えなければならない。例えば、スローインの時、プレーヤーがどこにパスを出して、どのような動きをするのか、ディフェンスはどのように守るのかを先手を読む必要がある。

## 7. 総括

日頃からトレーニングを行っているつもりだったが、まだまだ走力も体幹も足りないと感じた。全国に同年代で審判活動をしている仲間ができたので、皆に負けないようにこれからもトレーニングを頑張りたい。

講師の方々は、日頃のちょっとした空き時間にバスケットボールのことを考え、動画を見て、次はこうやってみようという目標を決めるとおっしゃっていた。自分自身、仕

事で都合が合わないことを理由にバスケットボールのことが頭から離れていた時期があった。しかし、講師の方々のそのような話を聞いて、仕事で審判活動ができないといっても、次の審判する機会までにできることは沢山あり、努力を怠らないことが大切なのだと感じた。

3日間、暑さと疲労で正直辛かったが、共に頑張っている仲間とコミュニケーションをとりながら乗り越えることができた。モデルゲームでは、相手審判がどのような審判をするのか全く分からない状況で審判をしなければならず、プレ・カンファレンスやインターバル時のコミュニケーションがいかに大事かということを実感した。

この講習会で学んだことを生かして、今までよりもさらに努力をし、加藤氏もおっしゃっていたが小さな目標を少しずつクリアしていき、自分の理想とする審判像に近づいていきたい。

## 8. 謝辞

今回このような貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。本講習会にあたり、ご支援いただきました北海道バスケットボール協会の皆様には心より感謝申し上げます。

また、南空知地区バスケットボール協会の皆様、そのほか多くの皆様に、日頃らご指導いただきまして、深く感謝申し上げます。